

使おう、広げよう



バイオマスマーク商品

バイオマスの利活用の 取組みについて

平成19年7月31日

社団法人 日本有機資源協会

豊かなる大地、永遠の地球

バイオマスの  JORA

The logo for JORA features a globe with a circular arrow around it, integrated into the letter 'O'.

バイオマスの利活用の取り組みについて

—バイオマスの利活用による循環型社会の実現を—

バイオマスをエネルギーや製品として総合的に利活用し、持続的に発展可能な循環型の社会を実現していくことが必要である。

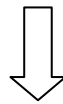
平成18年3月に閣議決定した新たな「バイオマス・ニッポン総合戦略」において、バイオマスの輸送用燃料としての利用促進、バイオマスタウンの積極的な展開を行うこと(平成22年度までに300程度構築)が提示されている。また、京都議定書の目標達成に向けた取り組みの強化が必要となっている。

当協会は、「有機性資源の総合的な有効利用の促進を図り、持続可能な循環型社会の構築と環境保全に寄与する活動を推進する」ことを目的に平成14年3月に設立された。

目的達成に向けて普及啓発、人材育成、研究開発等の諸事業を展開しており、特に、バイオマス(有機資源)の利活用の促進を図ることで社会に貢献するものである。

バイオマスの利活用：

廃棄物系バイオマス、未利用バイオマス、資源作物バイオマス



バイオマス燃料(エタノール、ディーゼル)、バイオガス、木質ペレット、コンポスト、飼料、バイオマスプラスチック、他

○調査研究事業

有機資源の循環利用に係る諸問題について、技術的観点から調査研究を行い課題ごとに技術資料を取りまとめている。

また、「バイオマス・ニッポン総合戦略」の実現を図るため、バイオマスタウン構想に資する調査等を実施する。

- ・ 地域におけるバイオマス総合利活用計画の策定に資するため、モデル地域における多様なバイオマス資源の総合的な利活用を内容とする「地域バイオマス循環利用システム調査」を実施する。

- ・「国産バイオ燃料の生産拡大」及び「地域バイオマスの利用の加速化」を推進するため、地域に賦存している未利用のバイオマスの積極的な利活用の可能性に関する調査を実施する。

○研修事業

有機資源の循環利用を適確かつ効率的に推進するうえで、有能な人材の養成が不可欠であることに鑑み、研修、講習会、視察等を行う。

- ・ バイオマス利活用基礎講座の開催
バイオマス利活用に関する政策、技術、事業経営等全般にわたる知識を修得し地域におけるバイオマスの利活用を推進する担い手を養成する。
本講座の修了者には、コンポスト生産管理者養成研修の受講資格を与える。
- ・ コンポスト生産管理者養成研修の開催
コンポスト化事業における技術管理あるいは生産施設の総括管理業務担当者に必要な知識・技術の習得を目的とする研修を実施する。

○人材育成事業

バイオマスタウン構想の策定・実現のため、地域において、豊富な知見を有し、関係者の調整など地域の取り組みのアドバイス、コーディネートできる「現場での推進とサポート役」の人材を育成する。

- ・ 既にバイオマスタウンアドバイザーの育成を行なったところであり、更にバイオマス利活用コーディネータを養成するための育成講座及び実施研修を行う。

○支援・援助事業

有機資源循環利用に関する事業や研究等に関連する個人、企業、団体等からの要請、要望あるいは問合せ等を受けて、その支援を行う。

- ・ 相談室の運営
本協会に設置する相談室において、資料提供、面談指導、実地指導、講演委員の派遣等実施する。

- ・ バイオマス利活用計画策定支援活動の実施
地方公共団体の要請を受けて当該地域におけるバイオマスタウン構想書、バイオマス総合利活用マスタープラン、バイオマス利活用地区計画等地域におけるバイオマス利活用計画策定業務を支援する。
- ・ バイオディーゼル燃料の円滑な普及拡大のための活動を行う。

○バイオマスマーク製品等推奨事業

優良な有機資源利活用製品等の生産・流通を促進し、有機資源利活用が円滑かつ適切に推進されるための市場の形成とその発展を期すために、製品や生産設備、更に製造者の評価を高め、優良な製品等を推奨することを目的としている。

- ・ 有機資源利活用製品生産者等からの依頼を受け、製品の性状・品質あるいは設備の機能などを調査し、法令及び本協会基準に照らし、審査・評価し、優良と判断できる製品あるいは生産設備を関連市場または利用者に推奨する。
- ・ バイオマス由来の商品に「バイオマスマーク」を付すことにより、消費者のバイオマス商品への認識と利用の促進を図り、これらの商品を普及することによりバイオマスの利用促進と自然な恵みで持続的に発展可能な社会の実現に貢献する。

○普及啓発事業

バイオマスの有効利用に係る国及び地方公共団体の施策と連携し、国民の各層各界に有機資源循環利用推進のための普及啓発活動を行う。

- ・ 地域におけるバイオマスタウン構想あるいはバイオマス利活用事例発表と意見交換を行う「バイオマスサロン」を開催する。
- ・ バイオマス関連展示会（バイオマス総合展 2007、エコプロダクツ展 2007）等に協賛し、出展する。
- ・ 有機資源循環利用グリーンフォーラムの開催、ホームページにおける相談室受付、出版物案内、バイオマス製品の紹介、バイオマス関連情報の提供等を行う。
- ・ バイオマスに関する一般消費者、学童等の関心を高め理解を深めるため、バイオマス利活用の普及啓発用教材として、バイオマス素材で構成された「バイオマス栽培セット」等の販売を行う。

○出版事業

技術委員会の各専門委員会における成果としての技術資料を作成・販売しバイオマス利活用技術の普及を目的としている。

- 既刊の調査報告書・マニュアル等を引き続き販売する。
既刊書：「木質系MRSの現状と課題」、「コンポスト化マニュアル」、「バイオガスシステムの現状と課題」、「有機資源炭化マニュアル」など
- 平成19年度は、「地域バイオマス循環利用システム調査報告書（仮称）」の発刊を予定している。

○国際交流事業

国内での本会活動の拡充にとどまることなく地球環境保全活動への参画も視野に入れて、海外先進国の関係団体等との連携協調、開発途上国への技術支援、国際的情報交換、人的交流などの推進を目的とする。

- 有機性資源循環利用アジアネットワーク (ANOR) の運営、海外関係団体 (ORBIT、USCC) との交流を継続する。